

資料 地域の概況

第1節 自然環境

1 地 形

当地域は、兵庫県の区域のうち県南部に位置する区域で、東は大阪府と隣接し、南大阪湾、播磨灘に面している。当地域の東部は、大阪湾に注ぐ武庫川、猪名川が貫流し、北摂山地及び六甲山地に囲まれた大阪平野が広がっている。中央部は、平均海拔約500mの六甲山系が東高西低の傾きをみせながら約30km連なり、市街地は大阪湾との間で東西に長く形成されている。西部は、播但山地に源を發した加古川、市川、揖保川が播磨灘に注ぎ播磨平野を形成している。当地域の面積は、約1,405km²で県面積の約17%である。

2 気 象

気象は、一般に温暖で、瀬戸内海型の気候を呈している。

地域内の年間の平均気温は、15.8 である（神戸海洋气象台、昭和41年～平成12年の平均）。降水量は、年間1,300mm前後と少なく、降雨は6月、7月の梅雨期と9月の台風の時期に集中し、他の季節は晴天が多い。風向は、六甲山地の影響を受け、中央部では東西系の風が多く、東部では、夏期は西系の風が、冬期は北系の風が卓越し、西部では、夏期は南及び北東の風が冬期は北系の風が卓越している。風速は、神戸市（神戸海洋气象台）で平年値の平均は、3.3m/秒となっている。

平均値の年間日照時間は、1,966時間前後である。

3 水 象

(1) 河川

当地域を流れる主要水系は、1級水系として淀川（猪名川・神崎川）、加古川及び揖保川、2級水系は、武庫川、明石川、喜瀬川、市川、夢前川等がある。

猪名川は、川辺郡猪名川町の大野山付近に源を發し、武庫低地を経て尼崎市内で神崎川に合流して大阪湾に注ぐ全長約39kmの河川である。

加古川は、丹波地方にその源を發し、播但山地、東播丘陵に扇状地性低地を形成して加古川市に至り、最下流の高砂市付近で三角州低地や砂州を形成して播磨灘に注ぐ全長約87kmの県下最長の河川である。

揖保川は、宍粟郡藤無山に源を發し、県下最高峰の氷ノ山から發した引原川と合流し、西播磨山地に狭長な谷底平野を形成して龍野市に至り、さらに林田川と合流し、三角州低地を形成して播磨灘に注いでいる。

(2) 湖沼

当地域の千苅水源池は、武庫川支流の羽束川をせき止めた人工貯水池で、有効水

深27.4m、有効貯水量 1,161万m³、湛水面積1.12km²あり、神戸市の上水源として利用されている。

(3) 海域

当地域が面する瀬戸内海は、明石海峡により、その東側は大阪湾に、西側は播磨灘に分かれており、外海との水の交換に時間がかかり、水質汚濁物質が蓄積しやすい閉鎖性水域となっている。潮流は、明石海峡で最大流速6ノットにも及んでいるが、大阪湾奥部及び播磨灘では全体に緩やかである。

4 動植物等

(1) 動物

環境省発表のレッドリスト(「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」(平成9～12年度))等に選定されている動物のうち、当地域に生息しているものは、オオサンショウウオ、タガメ、ギフチョウ、オオムラサキ等である。

(2) 植物

環境省発表のレッドデータブック(「日本の絶滅のおそれのある野生生物」(平成12年度))に選定されている植物のうち、当地域に生育しているものは、オニバス、ガガブタ、アサザ等である。

(3) 鳥獣

環境省発表の鳥類レッドリスト(「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」(平成10年度))等に選定されている鳥獣のうち、当地域に生息しているものは、ミゾゴイ、チュウサギ、ミサゴ、オオタカ及びハイタカ等である。

第2節 人口

国勢調査(平成12年10月1日現在)の結果による平成12年の当地域の人口は、4,208千人であり、これは、県全体の約76%を占めている。平成7年の国勢調査結果とに比較すると約15万人増加しているが、阪神・淡路大震災により神戸市、西宮市、芦屋市等で被災により転出した人口が回復したことによる影響が大きい。

一方、当地域の人口密度は、平成12年10月1日現在で、2,996人/km²である。

また、平成12年のD I D(人口集中地区)人口は、3,816千人、D I D面積は、500km²であり、地域全体の約36%を占める人口集中地区に地域内の約91%の人々が生活している。